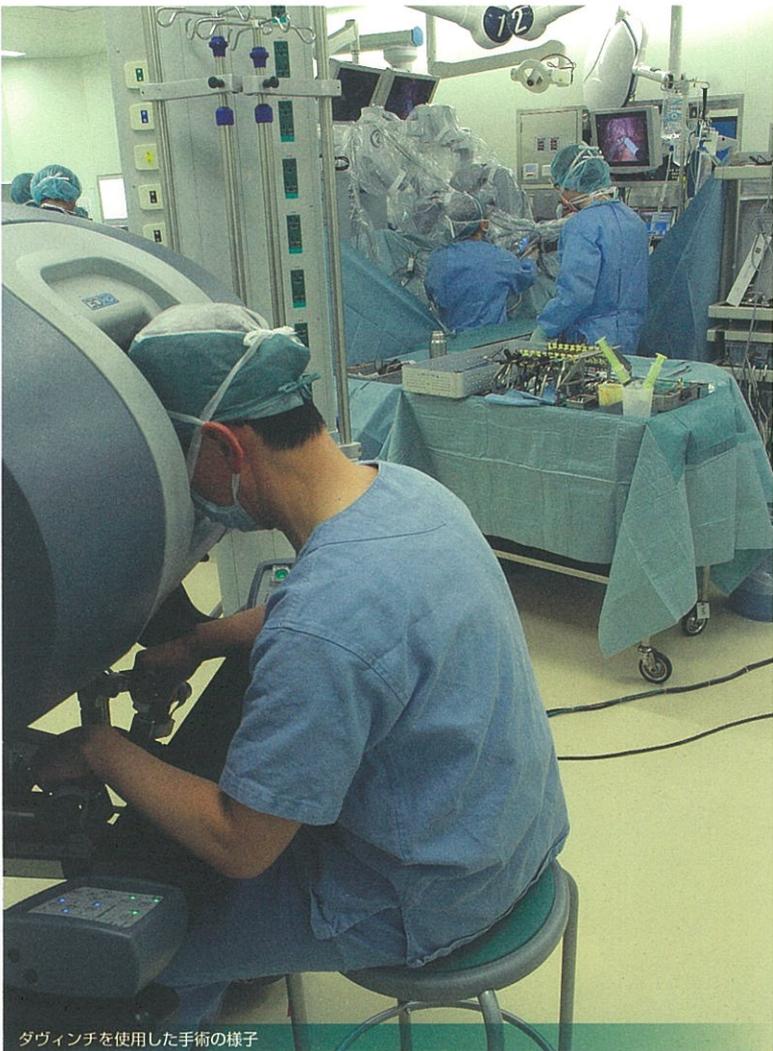


秋田大学医学部附属病院

「ダヴィンチ」を導入手術支援ロボット



ダヴィンチを使用した手術の様子

秋田大学医学部附属病院は、秋田県による支援のもと、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」(以下、ダヴィンチ)を導入しました。県内では初めての導入です。

ダヴィンチは、離れた場所にいる執刀医が体内の立体映像を見ながら遠隔操作で手術ができ、手術を行うロボット部分とコントロールする操作部分に分かれています。ロボット部分には4本のアームがあり、そのうち3本には鉗子(かんし)やメス、残りの1本に3Dカメラが装着されており、操作台に座った執刀医が4本

のアームを自分でコントロールしながら手術を進めていきます。

ダヴィンチを使用した手術のメリットは、患者さんの身体への負担が減ること、手術の質の向上と合併症を引き起こすリスクの軽減が期待できることです。鉗子が直線的な動きしかできない従来の腹腔鏡手術に対して、ロボットのアームには人間の手よりも稼働域が広い関節がついているため、より複雑で繊細な動きが可能です。内視鏡の映像が立体かつ繊細で見やすく、手ぶれを

補正する機能もついているため、より周りの血管や神経を傷つけずに臓器や腫瘍を摘出することができます。

平成24年4月にロボット支援前立腺全摘除術が保険適用になり、秋田大学医学部附属病院では同年12月からダヴィンチを使用した前立腺摘出手術を行っています。全国的には子宮筋腫や子宮がん、胃がん、大腸がん、肺がんなど幅広く使用されており、秋田大学医学部附属病院においても手術の範囲を広げていく予定です。